

群 教 七	G01 - 03
	平 17.225集

# 説得力のある意見をもてる生徒を育てる 「書くこと」の学習指導の工夫

－ 「意見を裏付ける事実」と「意見を支える立場」に着目して －

長期研修員 樹下 好之

## (研究の概要)

本研究は、書くことの指導において、「意見を裏付ける事実」と「意見を支える立場」という2種類の根拠に着目した学習を行うことによって、読み手が納得できる説得力のある意見をもてる生徒を育てようとしたものである。具体的には、自分の意見の根拠と他者の意見の根拠とを比較してものの見方や考え方を深めたり、それについての意見交流をしたりして、説得力のある意見をもてるようになる学習活動を行った。

**キーワード** 【国語 - 中 書くこと 説得力 意見 根拠 事実 立場】

## 主題設定の理由

平成16年度群馬県一斉学力テスト（教育課程実施調査）の結果を見ると、中学校国語では「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項」で、国の設定通過率を上回っていたのに対し、「書くこと」の領域は下回っていた。反面、同調査・小学校国語の「書くこと」では、通過率を上回っていた。中学校国語科の「書くこと」の指導に改善すべき点があると考えた。

「書くこと」について中学2年生にアンケート調査を行った。その結果、「どうやって考えたらいいのかわからない」「書くことがない」という悩みをもつ者が多かった。

前者には自分の考えを深めるための指導が有効であり、後者には身近な課題から自分の考えをもてるようにした上で、それを深めるための指導が有効であると考えた。考えを深めるためには、自分の意見をもちその根拠を考えることが重要である。本研究では、根拠には、その意見を述べる基になった事実と、その事実を見つめることで意識化された自分自身の考えを示す立場という2種類があると考え、それらを「意見を裏付ける事実」と「意見を支える立場」と定義する。

このような意見の根拠は、中学校学習指導要領解説 - 国語編 - で、「書くこと」の学習指導事項として挙げられている 発想や認識、 事柄や意見、 選材、 構成、 記述、 推敲、 評価・批評の中の、主に 発想や認識及び 事柄や意見

で指導する内容である。そこでの学習活動の工夫を、次のように考えた。

発想や認識をもつ学習活動では、まず、身近な話題から自分の意見をもち、その根拠としての「意見を裏付ける事実」と「意見を支える立場」について考えることで、自分の考えを広げたり深めたりする。次に、根拠としての事実や立場が異なる複数の意見を比較することで、自分の考えをより広げたり深めたりする。このような学習活動を考えたため、発想や認識をもつ学習活動をAとBの二つに分けて実施することとする。

事柄や意見を考える学習活動では、発想や認識をもつ学習活動Aで考えた自分の意見の根拠と、学習活動Bで考えた他者の意見の根拠とを比較して事実と立場について考えを深め、さらに、話し合い活動を行って、自分が考えた根拠が読み手にとって納得できるものかどうかを確認し合う。このような学習活動により、相手意識や目的意識が明確になり、説得力のある意見をもてると考える。

以上のことから、「意見を裏付ける事実」と「意見を支える立場」に着目することで、説得力のある意見をもてるようになると考え、本研究主題を設定した。

## 研究のねらい

「書くこと」の領域の、発想や認識及び事柄や意見の指導事項において、ものの見方や考え方を深めて「意見を裏付ける事実」と「意見を支える

立場」を明確にする学習活動を行うことによって、説得力のある意見をもてる生徒を育てられることを実践を通して明らかにする。

#### 研究の見通し

- 1 発想や認識をもつ学習活動Aにおいて、身近な話題から自分の意見もち、「意見を裏付ける事実」と「意見を支える立場」について考えることによって、ものの見方や考え方を広げたり深めたりできるであろう。
- 2 発想や認識をもつ学習活動Bにおいて、他者の意見が、その根拠である事実や立場の違いにより、どのように異なるかを考えることによって、ものの見方や考え方をさらに広げたり深めたりできるであろう。
- 3 事柄や意見を考える学習活動において、自分の意見の根拠と他者の意見の根拠を比較して考えたり、話し合い活動をしたりすることで、読み手が納得できる根拠を明確にして説得力のある意見をもてるであろう。

#### 研究の内容及び方法

##### 1 研究の内容

###### (1) 発想や認識をもつ学習活動Aについて

ここでの学習活動は、身近な話題から自分の意見もち、その2種類の根拠について考えることである。事前のアンケート結果から、こうした学習に生徒が不慣れなことが分かったため、日常会話を例にして、意見と、その根拠である事実と立場などについて説明した後、身近な話題を提示する、以下の学習プリントを用いることとする。

###### ア 学習プリント 「意見と、その拠りどころとなる2種類の根拠 その一」

これは、事実と立場という2種類の根拠が明確な意見文を読み、説得力のある意見には、2種類の根拠が重要であることについて考えるための学習プリントである。

###### イ 学習プリント 「意見と、その拠りどころとなる2種類の根拠 その二」

これは、プリントの2つの根拠が明確な具体例について、もしも、根拠としての事実がなかったら、または、立場がなかったら、さらにどちら

の根拠もなかったらという3つの場合を想定し、それらと2つの根拠がある元々の具体例を比較し、説得力をもつ具体例と、その理由について考えるための学習プリントである。

その上で、事実は情報収集により、立場は自分の内面を見つめることにより確認できることを考える。立場には「地位・境遇・役割・その人の行動を支える、ものの見方や考え方」といった意味がある。この中で本研究が重視するのは「その人の行動を支える、ものの見方や考え方」である。

しかし、これだけでは生徒が学習に困難を感じることが予想される。そのため、自分の考え方を表現するには行動で示すことが重要であると考え、立場をより分かりやすくするキーワードを「行動」とする。さらに、自分の考えを行動に移すことにためらいを感じる生徒に配慮して、「努力」をもう一つのキーワードとして設定する。

###### ウ 学習プリント 「課題について自分の意見をもとう」

これは、学習プリントでの学習活動に基づき、課題について自分の意見もち、その根拠である事実と立場を考えるための学習プリントである。学習プリントは、後で学習するプリントとほぼ同じ内容であり、プリントで説得力のある意見をもつための準備学習である。

「書くことがない」といった悩みをもつ生徒の実態に配慮し、生徒が自分とのかかわりを考えやすい身近な課題を設定する。ここでの学習は、プリントの準備学習であるため、自分の考えを十分に深められず、意見や根拠を書けない生徒もいることが予想される。声かけやアドバイスの書き入れなどの支援をし、以後の学習活動でものの見方や考え方を広げたり深めたりして、自分の考えをもてるようにすることが重要であると考え。

###### (2) 発想や認識をもつ学習活動Bについて

課題についての他者の意見とその根拠を提示し、その上で、他者と自分とのかかわりについて考えたり、話し合ったりするために、以下の学習プリントや学習資料を用いる。

###### ア 学習プリント 「身近な話題から課題について考えてみよう」

これは、次の学習資料及びの他者の意見について考え、さらに、自分とのかかわりについても考え、話し合うための学習プリントである。

###### イ 学習資料 「説得力のある意見」及び学習資料 「同」

2種類の根拠の違いから、同じ話題について考え方の異なる他者の意見を提示し、話題の中に課題を見いだすための学習資料である。

ウ 学習プリント 「課題について他者の意見を聞いて自分の考えを広げたり深めたりしよう」

これは、学習資料 及び の他者と自分とのかかわりをより深く考えるための学習プリントである。キーワードを基に、他者の意見や根拠について考える。さらに、話し合い活動を行うことで、自分が考えた根拠が読み手にとって納得できるものかどうかを確認し合う。

(3) 事柄や意見を考える学習活動について

これまでの学習を振り返り、自分の考えをさらに広げたり深めたりするために、以下の学習資料や学習プリントを用いる。

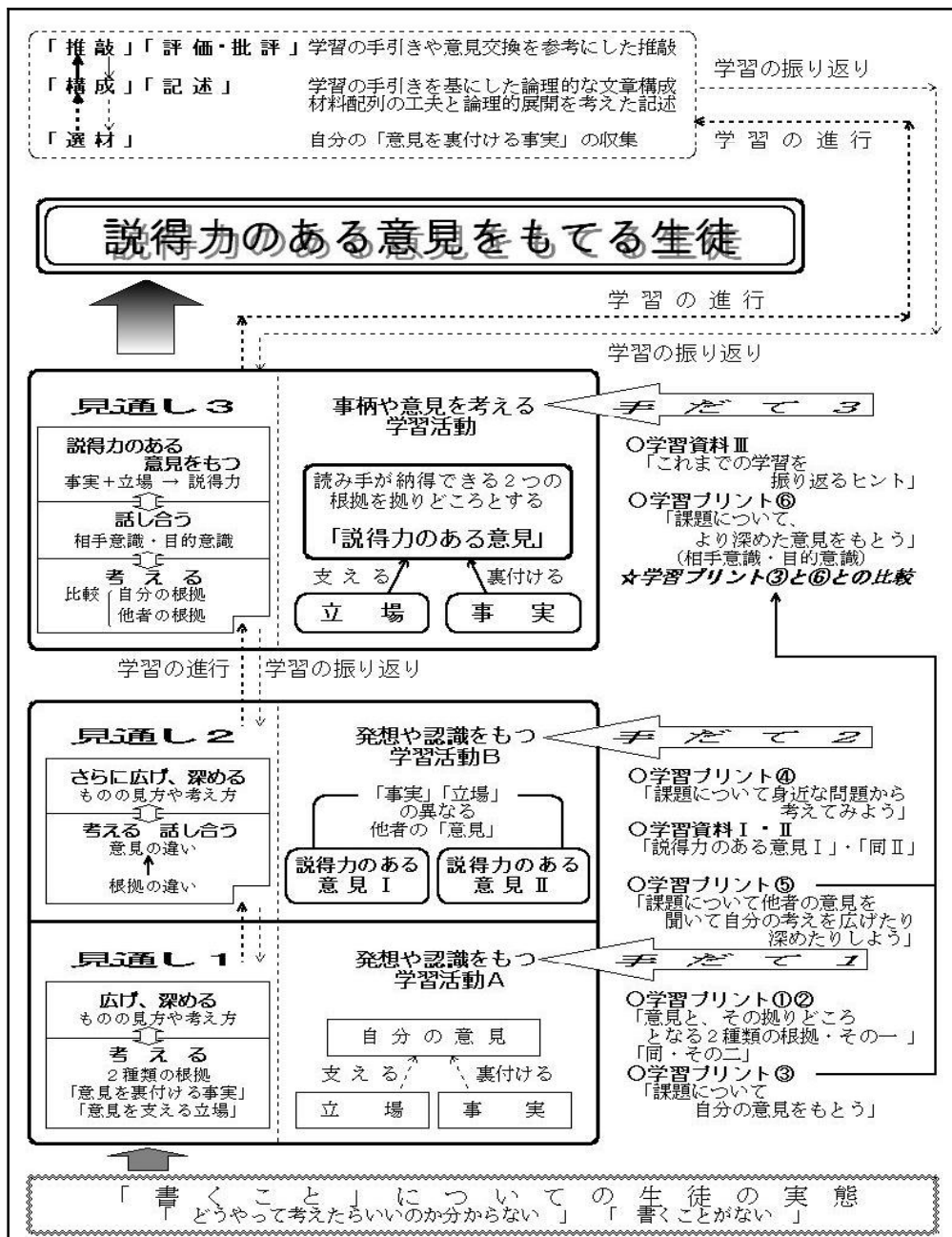
ア 学習資料 「これまでの学習を振り返るヒント」

これは、課題についてのキーワードから、これまでの学習を振り返り、自分の考えを見つめ直すための学習資料である。

イ 学習プリント 「課題について、より深めた意見をもとう」

これは、学習資料を基に、学習プリント で考

研究構想図



えた自分の意見と学習プリント で考えた他者の意見とを比較したり、話し合ったりして、自分の考えをより広げたり深めたりするための学習プリントである。

ここでの学習活動により、これまでの学習内容がまとめられ、相手意識や目的意識が明確になり説得力のある意見をもつ。

## 2 研究の方法

自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりして、読み手が納得できる2種類の根拠である「意見を裏付ける事実」と「意見を支える立場」とを明らかにすることにより、説得力のある意見をもてる生徒の育成を目指す本研究について、研究の見通しに基づき、次のような実践によって検証する。

## (1) 研究実施の計画と抽出児

対象	勢多郡富士見村立富士見中学校 2年6組39人	抽出児 A (女)	「どうやって考えたらいいのかわからない」という悩みをもつ生徒である。意見の根拠としての事実と立場について考えられるよう、支援することが有効であると考え。具体的には、声かけや学習プリントへのアドバイスの書き入れなどの方法をとりたい。
授業者	長期研修員 樹下 好之		
期間	10月下旬～11月中旬 7時間	抽出児 B (男)	「書くことがない」という悩みをもつ生徒である。身近な話題から自分の意見をもたせた上で、根拠としての事実については具体例を挙げ、立場については体験の振り返りを促すことが有効であると考え。具体的には、声かけや学習プリントへのアドバイスの書き入れなどの方法をとりたい。
単元	「説得力のある意見を書こう」 ～「意見を裏付ける事実」と 「意見を支える立場」		

## (2) 検証場所と方法の見通し

	検証場所	検証の観点	検証方法
見通し1	発想や認識をもつ学習活動A	身近な話題から自分の意見をもち、「意見を裏付ける事実」と「意見を支える立場」について考えることは、ものの見方や考え方を広げたり深めたりする上で有効であったか。	課題に対する自分の考え方を広げたり深めたりできたかを分析する。 ・学習プリントを分析する。 ・抽出児の様子を分析する。
見通し2	発想や認識をもつ学習活動B	他者の意見が、根拠としての事実や立場の違いにより、どのように異なるかを考えることは、自分の考え方をより広げたり深めたりする上で有効であったか。	課題に対する自分の考え方をより広げたり深めたりできたかを分析する。 ・学習プリントを分析する。 ・抽出児の様子を分析する。
見通し3	事実や意見を考える学習活動	自分の意見の根拠と他者の意見の根拠を比較して考えたり、話し合い活動をしったりすることは、読み手が納得できる根拠を明確にして説得力のある意見をもつ上で有効であったか。	課題に対して、説得力のある意見をもてたかを分析する。 ・学習プリントを分析する。 ・抽出児の様子を分析する。

### 研究の展開

#### 1 本題材を通じて育てたい言語能力

「書くこと」の領域において、ものの見方や考え方を広げたり深めたりして読み手が納得できる根拠としての事実と立場を明確にすることで、説得力のある意見をもつ能力を身に付けさせたい。

#### 2 題材名

「説得力のある意見文を書こう」  
～「意見を裏付ける事実」と「意見を支える立場」

#### 3 題材の考察

本題材は、根拠を踏まえて、説得力のある意見をもつことを目指した学習である。

書くことの学習では、自分の意見をもち、その根拠を考えることが重要である。生徒が自分の考えを深める学習活動を次のように構想した。

まず、読み手が納得する根拠として「意見を支える立場」と「意見を裏付ける事実」について考え、自分の意見をもつ学習活動を行う。

次に、同じ話題に対して考え方の異なる他者の意見と、その根拠である事実と立場を、ビデオ映像の学習資料によって提示し、それらについて考えたり、話し合ったりする学習活動を行う。

その上で、自分の意見の根拠と他者の意見の根拠とを比較し、話し合い活動を通して、自分の考えをより広げたり深めたりして相手意識や目的意識

を明確にして、読み手が納得できる根拠を考えて説得力のある意見をもつ学習活動を行う。

具体的な話題として、環境問題を扱うこととする。環境問題は、国語科教科書の説明文で繰り返し扱われてきたもので、生徒にとって身近な問題でもある。その中でも、多くの生徒に経験がある「食べ物を残すこと」を環境問題を考える出発点とし、それについての学習資料「説得力のある意見」及び「同」（自作ビデオ及び）を提示する。は、商品の新鮮さと品ぞろえのよさを求める消費者の気持ちにこたえて売れ残った食品を処分するコンビニエンスストア（以降「コンビニ」と表記）の店長が、自分の意見とその根拠である事実・立場を説明するものである。は、生ゴミを処分することが環境破壊につながることや現代社会が物を大事にしない傾向にあることを問題視し、生ゴミをたい肥化に努める有機農業実践者の意見とその根拠である。その際、コンビニを考えるキーワードが「便利さ」であり、有機農業のキーワードが「もったいない」であることを確認する。さらに、「もったいない」という考え方を発展させる学習資料として「これまでの学習を振り返るヒント」（自作ビデオ）を提示する。

このように、身近な話題から自分の意見をもち、ものの見方や考え方を広げたり深めたりして、読み手が納得できる根拠としての事実と立場を明確にすれば、説得力のある意見をもてるようになると考え、本題材を設定した。

4 目標及び評価規準

目標	「書くこと」の領域の発想や認識及び事柄や意見の学習活動において、読み手が納得できる根拠としての事実と立場を明らかにすることによって、説得力のある意見をもつ力を身に付ける。		
評価規準	国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
	自分の意見の根拠を明らかにし、相手に納得できるように表現しようとしている。	「意見を裏付ける事実」や「意見を支える立場」という根拠を明確にして、説得力のある意見をもとうとしている。	相手や目的にふさわしい言葉遣いや、自分の考えを深めるためのキーワードなどについて考えている。

5 指導と評価の計画（全7時間 第3.5時まで掲載、詳細は資料編参照）

過程	ねらい 主な学習活動	時間	学習への支援	評価規準		
				国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
見直し1 発想や認識をもつ学習活動A	意見の根拠である「意見を裏付ける事実」と「意見を支える立場」について考え、環境問題について自分の意見をもつ。  意見文の具体例を読み、学習プリント「意見とその拠りどころとなる2種類の根拠・その一」「同・その二」に、具体例の意見とその2種類の根拠について書く。  立場という言葉について考えを深める。  学習プリント「課題について自分の意見をもとう」に、食べ物を残すことから考えた環境問題についての意見を書き、その2種類の根拠について考える。	1・5	説得力のある意見は、「意見を裏付ける事実」と「意見を支える立場」の2種類の根拠を拠りどころとすることについて黒板の掲示物から考えさせる。  学習プリントについて説明して、意見文の具体例の意見と事実と立場を書くよう促す。  立場という言葉を深く理解するためのキーワードを考えさせる。  学習プリントの意見は、自分で一番大切だと考えることとし、事実と立場についてもなるべく書くように促す。  学習プリントに自分の考えを書けない生徒に具体的な助言をする。	食べ物を残すことから考え始めて、環境問題について自分の意見をもち、その根拠としての事実と立場について考えている。（観察・学習プリントの分析）  根拠としての事実と立場を踏まえて、自分の意見をもとうとしている。  意見文の具体例について考えたり、食物を残すことについての体験を想起して環境問題について考えたりできるように、アドバイスする。	食べ物を残すことから考え始めて、環境問題についての自分の意見をもち、書いている。（学習プリントの分析）  根拠としての事実と立場を踏まえて、自分の意見を書いている。  意見文の具体例について考えたことを書いたり、食物を残すことについての体験に基づいて環境問題について書いたりできるようアドバイスする。	立場の意味を国語辞典を調べ、立場という言葉を理解するためのキーワードを考えて書いている。（学習プリントの分析）  立場という言葉により深く理解するためのキーワードを考えて書いている。  国語辞典の使い方が分かるようアドバイスする。
見直し2 発想や認識をもつ学習活動B	環境問題について考えを広げたり深めたりする。  環境問題についてのビデオ映像による学習資料及び（コンビニ店長の「説得力のある意見」と有機農業実践者による「同・」）を見て、自分の考えを広げたり深めたりしながら、学習プリント「身近な話題から、『食べること』について考えてみよう」と学習プリント「環境問題について、他者の意見を聞いて自分の考えを深めよう」に取り組む。  学習プリントの取組では、グループでの話し合い活動を行い、意見交流を通して、さらに自分の考えを広げたり深めたりする。	1・5	学習プリントを配布し学習資料及びを提示する。  コンビニのキーワードは、「便利さ」、有機農業のそれは、「もったいない」であることについて考えさせる。  話し合いの手引を配布して、「説得力のある意見」及び「同・」についての話し合いは、一人一人が自分の考えを発表しながら、それについての司会もする、という方法を説明する。  話し合い活動が円滑に進行しない班にアドバイスする。  プリントに自分の考えを書けない生徒に具体的な助言をする。	「説得力のある意見」及び「同・」についての話し合い活動で、自分の考えを発表したり、友達のことを聞こうとしていたりしている。（学習プリントの分析・観察）  自分の考えと友達のことを比較して、より深めた考えを発表しようとしている。  学習プリントに書いた内容や、友達のことを自分の良いや悪いところを指摘し、自分の考えを発表したり、友達の意見を聞けたりするようにアドバイスする。	「説得力のある意見」及び「同・」のそれぞれの意見と、その根拠となる事実と立場について考えたことや、話し合っただけで分かったことを書いている。（学習プリントの分析）  自分の意見や、その根拠としての事実と立場と比較しながら書いている。  「説得力のある意見」及び「同・」の重要な内容について考えられるようにアドバイスする。	「説得力のある意見」及び「同・」についての自分の考えを、他者の意見の中心となるキーワードを用いて書いている。（学習プリントの分析）  2つのキーワードの関係性を明確にするために接続語や指示語などを用いて書いている。  「説得力のある意見」及び「同・」の中心となるキーワードについてアドバイスする。
見直し3 事柄や意見を考える学習活動	環境問題について、読み手が納得できるような根拠を考えて、説得力のある自分の意見をもつ。  学習資料「これまでの学習を振り返るヒント」(ビデオ映像)を見て、これまでの学習活動や環境問題にかかわる自分の体験を振り返って、読み手が納得できる根拠としての「意見を裏付ける事実」と「意見を支える立場」について考えを深め、学習プリント「課題について、より深めた意見をもとう」に取り組む。	0・5	学習資料「これまでの学習を振り返るヒント」(他業種における「もったいない」という考えの実践)を提示して、有機農業との関連を考えることで、環境問題についての考えを深めさせる。  意見、事実と立場などが書けた生徒同士で、互いのプリントを読み合い、納得できる根拠がどうか、意見交換を促す。  学習プリントに自分の考えを書けない生徒に具体的にアドバイスする。	「これまでの学習を振り返るヒント」から、自分の考えを、さらに深めようとしている。（学習プリントの分析・観察）  自分で見つけた資料から、自分の考えを深めようとしている。  自分の考えの深まりに気付くようアドバイスする。	「これまでの学習を振り返るヒント」から自分の考えを振り返り、読み手が納得できるような根拠を考えて、説得力のある意見を書いている。（学習プリントの分析）  自分で見つけた資料の中から、自分の意見の根拠となる事実を選んで書いている。  自分の考えの深まりに気付き、意見と、その根拠である事実と立場などが書けるように、具体的にアドバイスする。	「これまでの学習を振り返るヒント」の考えの中心となるキーワードや自分の考えの中心となるキーワードを用いてより深めた自分の意見を書いている。（学習プリントの分析）  複数のキーワードの関係性を明確にするために接続語や指示語などを用いて書いている。  自分の考えのキーワードについて、アドバイスする。

は、おおむね満足できる状況・態度      は、十分満足できる状況・態度      は、努力を要する状況への方策

1 「意見を裏付ける事実」と「意見を支える立場」について考える学習プリント に取り組み、身近な話題から自分の意見を持ち、その根拠としての事実と立場を考える学習プリント に取り組んだことは、ものの見方や考えを広げたり深めたりする上で有効であったか

(発想や認識をもつ学習活動A)

ここでの学習目標は、事実と意見という2種類の根拠を明確にして課題について自分の意見をもつことである。

学習プリント 「意見と、その拠りどころとなる二種類の根拠・その一」では、環境問題についての意見文の具体例を読み、筆者の意見と事実や意見などを考えて書く学習活動を行う。

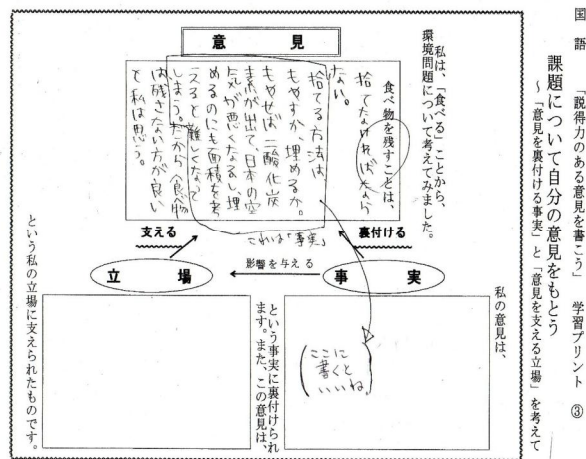
学習プリント 「同・その二」では、プリントの意見の拠りどころとなる根拠が事実と立場の両方がある場合と、そうではない場合を比較して、2種類の根拠がある場合が最も説得力があることについて、その理由も考え、さらに立場という言葉を使いやすくなるためのキーワードを考えて書く学習活動を行う。

学習プリント 「課題について自分の意見をもとう」では、食べ物を残すことから環境問題を考え、自分の意見を書く学習活動を行う。

抽出児Aは、「どうやって考えたらいいのか分からない」という悩みをもつ生徒である。Aの学習プリント の取組について、以下のような支援を行った。

Aは、具体例について、2つの根拠を自分で考えて書いた。しかし、意見については、その一部分のみを書いたため、文中のどこからどこまでが意見なのか考えながら読むよう話した。2種類の根拠について考える学習では、両方の根拠がある場合を最も説得力がある意見として選んだ。だが、理由が不十分だったため、理由がはっきりすると考える力が身に付くということを話した。

Aは、自分の意見などを書く学習で、意見を書く欄に意見と事実を区別せずに書いた。そのため、意見は提案、事実は自分の外にある根拠、立場は自分の内にある根拠であるという説明をした。しかし、Aは、声かけの支援を受けても自分の考えを十分に深めることはできなかった。そのため、回収したプリントに、声かけと同様の内容をアドバイスとして書き込んだ(資料1)。



次時にAに声をかけたところ「よく分からなかったことが考えられるようになって、これからの勉強を頑張れる気がしてきた。」と答えた。

Aは、立場をより分かりやすくするためのキーワードである「行動」を書かなかった。Aが「なぜ『行動』なのかよく分からない。」と言ったため、「あなたは部活の部長だね。部長として頑張ろうという気持ちをみんなに分かってもらえるにはどうすればいい?」と問いかけた。Aは「そうだ。行動で表せばいいんだ。」と言った。

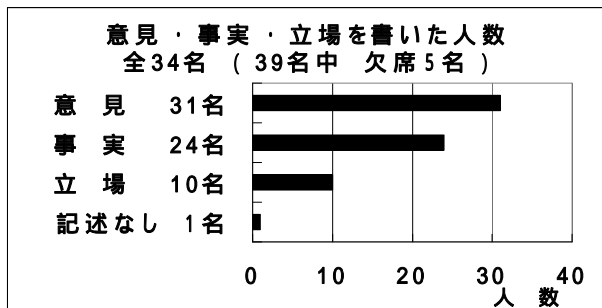
抽出児Bは、「何を書いたらいいのか分からない」という悩みをもつ生徒である。最初、Bは意見文の具体例について何も書かずにいた。そこで、叙述に即してプリントを読み返して考えるよう助言したところ、Bはプリントを読み、具体例の内容に即して意見や根拠を書くことができた。Bは、2種類の根拠について、事実を重視して、立場を有効な根拠と考えない傾向が見られ、最も説得力がある意見をどれも選ばなかった。そこで、回収したプリントに「立場の大切さを知ってほしいので、授業中に話をしよう。」と書き、次時に、給食を作る側と食べる側の立場の違いについて話したところ、Bは最も説得力がある意見として、2種類の根拠があるものを選べた。

Bは、自分の意見などを書く学習では、何も書かずにいた。そこで、自分の経験を振り返って意見などを考えるよう声かけをしたところ、「食べ物を残すことは、悪いことだと思う。」と意見を書いた。だが、事実や立場を書かずに「もう少し考える時間がほしい。」と言ったため、「そうだね。じっくり考えることが大切だね。頑張ろう。」とBの気持ちを尊重し、励ました。

他の生徒の具体例について考える学習では、意見、事実と立場などが書けない生徒がいたため、声かけや回収したプリントへのアドバイスの書き込みをした結果、全員が書くことができた。2種類の根拠について考える学習では、抽出児B以外全員が2種類の根拠を拠りどころとする意見を最も説得力がある意見として選んだ。立場を考える学習では、国語辞典の意味を踏まえて、立場を考えるために、さらに分かりやすいキーワードを考えられるよう「自分のものの見方や考え方は目には見えないから、それを誰かに分かってもらうには、どうすればいいだろう。」と投げかけたところ、「行動する。」と多くの生徒が答えた。

自分の意見などを書く学習の結果は以下のとおりである（資料2）。

資料2 学習プリントの結果



資料2の 意見を書いた31名は、すべて「食べ残しを減らそう。」といったものだった。 事実を書いた24名は、ゴミの焼却処理による二酸化炭素発生や悪臭についての内容が多かった。立場を書いた10名は、全員が食べ残しをしない努力について書いた。

ここでの学習では、意見、事実と立場の3つを、全員が書くことはできなかった。しかし、このような学習活動は、以降の学習活動で、これとほぼ同形式のプリントを用いて再度行われるため、その時の支援となるよう回収したプリントにアドバイスを書き込み、そのことを生徒に話した。事柄や意見を考える学習活動では、それまでの学習を踏まえて、資料2の「記述なし」の生徒も含め全員が、事実、立場を根拠として自分の意見を書けた。

生徒の感想では「今までは考えなくても作文は書けると思っていたけど、考えなければ書けないことが分かった。」「意見や根拠を考えることは難しかったけど、どうすれば自分の考えが深めら

れるのか分かった。」といったものが多かった。

以上のことから、「意見を裏付ける事実」と「意見を支える立場」について考える学習プリントに取り組み、身近な話題から自分の意見を持ち、その根拠としての事実と立場を考える学習プリントに取り組んだことは、ものの見方や考えを広げたり深めたりする上で有効であったと考える。

2 考え方が異なる他者の意見について考えるための学習プリントに取り組み、他者の意見を紹介する学習資料及び で、それぞれの根拠の違いを考え、それらについてまとめるための学習プリントに取り組んだことは、ものの見方や考え方をさらに広げたり深めたりする上で有効であったか（発想や認識をもつ学習活動B）

ここでの学習目標は、課題についての自分の考えを広げたり深めたりすることである。

学習プリント「身近な話題から『食べる』ことについて考えてみよう」では、生徒にとって身近なコンビニエンスストアの食品を考えるキーワードが「便利さ」であることを考えて書く学習活動を行う。

学習プリント「環境問題について、他者の意見を聞いて、自分の考えを広げたり深めたりしよう」では、ビデオ映像の学習資料及び（コンビニ店長の「説得力のある意見」及び有機農業実践者の「同」）を見て、それぞれの意見と、事実と意見について自分で考えたり、話し合ったりして分かったことを書く学習活動を行う。

抽出児Aは、「便利さ」というキーワードを自分で考えて書き、ビデオの内容についても書くことができた。だが、コンビニについての自分の考えを書くときは、文章を何度も書き直して「どう書いたらいいんだろう。」とつぶやいた。そこで「便利さがキーワードだったね。」と声をかけると、「そうなんだけど、考えがまとまらなくて。」と言い、書きかけた文章をすべて消した。

反面、Aは、次の有機農業について、ビデオが終わると、すぐに「コンビニと全く違う意見で、環境に優しく、処分しなければならない生ゴミを肥料にして、生ゴミを生かしている。捨てられてしまうものを、使えるものにしていてすごいと思った。」と書いた。そこで、Aが考えをさらに深めて、コンビニについても自分の考えが書けるように声かけによる支援を続けた（資料3）。

資料3 抽出児Aへの声かけによる支援

授 今、あなたは「コンビニと全く違う意見」  
 って、書いたね。じゃあ、コンビニの店長  
 A さんはどんなことを大切にしていたの？  
 (プリントを読み返して) 便利さを求める、  
 授 お客の気持ちにこたえるっていうことかな。  
 その「便利さ」と反対の考え方を示すキー  
 A ワードは何？  
 授 「もったいない」。  
 A そうだね。それじゃあ、2つのキーワードを  
 比べたら、コンビニについて自分の考えが  
 A 書けるかな。  
 授 あっ、分かった。 「授」は授業者

Aは、コンビニについて「とてももったいない。新鮮な品が売れなくなって処分すると、ゴミが出て環境に悪いと思った。」と自分の考えを書いた。さらに、これに続く話し合い活動でAの班が考えをまとめられるよう、以下のような声かけによる支援をした(資料4)。

資料4 Aのグループの話し合い活動の一部

「ア」「イ」「ウ」は、Aの班の生徒

A コンビニは生ゴミを減らさなくちゃいけないと思う。  
 ア どうすれば減るの。  
 イ 売れ残りそうになったら、コンビニも値下げすればいいじゃない？  
 ウ そうすればみんな買うよね。  
 A ゴミ減るね。  
 ア それでも、やっぱりゴミは出る。  
 授 このグループは、とてもいい意見が出たと思うな。  
 みんなの考えをうまくつなげられないかな。  
 イ コンビニの生ゴミを有機農業で使えば？  
 A いいね。それいい。

抽出児Bは、「便利さ」というキーワードやビデオの内容について自分の考えを書いた。だが、自分の考えを何も書かなかった。そこで「自分も同じだと思うことを書けばいいんだよ。」と声をかけると、Bは次のように書いた(資料5)。

資料5 抽出児Bの学習プリントの一部

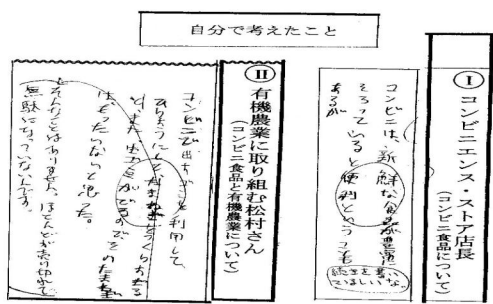


図5 「環境問題」に関する意見交換(2) 学習プリント⑤  
 環境問題について、他者の意見を聞いて自分の考えを深めよう

Bは、この後の話し合い活動で発言せず、プリントに何も書かなかった。Bは、ここでの学習に十分に取り組みない面もあった。しかし、学習の振り返りで、学習プリントやビデオ映像の学習資料について「自分の考えを広げたり深めたりするのに役立った。」と書いている。

他の生徒の学習では、「便利さ」というキーワードやビデオの内容を書いた者が多かった。書けない生徒が数名いたため、声かけやカードなどで支援をし、その生徒たちも書くことができた。

コンビニについて自分の考えを書く学習では、「便利で良いけど、生ゴミが出るのが問題だと思う。」「ゴミを燃やせば二酸化炭素が発生するから、ゴミを減らす努力をするべきだと思う。」「といった考えが書かれ、有機農業については「生ゴミを有効活用できるし、おいしい野菜作りもできるので、良いことだらけだと思う。」「などの考えが書かれていた。

その後の話し合い活動やそれについての全体発表では「コンビニの生ゴミを有機農業で生かすといい。」「コンビニの生ゴミは『便利さ』を求める消費者の意識から生まれたものだから、有機農業の良さをみんなで考えた方が良い。」「『便利さ』ばかりを求めず、『もったいない』を考えることが大切だ。」などの考えが発表された。

このように、話し合い活動で深められた生徒の考えは、社会に目を向け、具体的な事象に対し自分の考えを深めていこうとするものである。以前に書いた環境問題についての意見や根拠が、知識に基づく抽象的なものだったことと比べると、生徒がここでの学習を通して自分の考えを広げたり深めたりできたと考える。

生徒の感想では「ビデオでコンビニの店長さんなどいろいろな人の意見があり、私は生ゴミがそんなにたくさん出るなどとは思っていなかったの、いろいろなことに気付いた。」「ビデオを見て、本当にその場にいる人たちの意見や根拠が聞けてよかったし、ビデオを見て考えが広がった。分かりやすかった。」といったものが多かった。

以上のことから、考え方が異なる他者の意見について考えるための学習プリントに取り組み、他者の意見を紹介する学習資料及びで、それぞれの根拠の違いを考え、それらについてまとめるための学習プリントに取り組んだことは、ものの見方や考え方をさらに広げたり深めたりする上で有効であったと考える。



3 これまでの学習を振り返るための学習資料 で自分の考えを振り返り、自分の意見と他者の意見の根拠を比較して考えを深めるための学習プリントに取り組み、自分で考えたり話し合ったりしたことは、読み手が納得できる根拠を明確にして、説得力のある意見をもつ上で有効であったか  
(事実や事柄を考える学習活動)

ここでの学習目標は、読み手が納得できる根拠を考え、説得力のある意見をもつことである。

学習プリント「課題について、より深められた意見をもとう」では、これまでの学習を振り返って、発想や認識をもつ学習活動で考えた自分の考えと他者の考えを比較して考え、グループで話し合っって相手意識を明確にしてより深められた意見をもつ学習活動を行う。

これまでの課題が、食べ物を残すことから環境問題を考えることであったのに対し、生徒のものの見方が広がったり、深まったりしたことを重視して、「食べることに限定せずに環境問題を考える学習活動を設定する。ビデオ映像の学習資料

「これまでの学習を振り返るヒント」を見て、自動車の中古部品からフロンガス回収機を製作した会社の社長が「もったいない」という思いを大切に生きてきたことに触れ、その言葉から、生徒はこれまでの学習を振り返る。

抽出児Aは、食べ物を残すことについて考え、意見を「食べ物はなるべく食べて、捨てるのはいけないと思う。」と書き、事実については、生ゴミの焼却 二酸化炭素発生 地球温暖化について、立場は「今までは給食をほとんど残していたが、これからはちゃんと給食を残さずに食べていきたい。」と書いた。さらに、意見を伝えたい相手は、自校の生徒とした。

このようなAの考えと、Aが前時の学習でコンビニと有機農業との連携を考えたこととの関係が明確ではなかったため、そのことをAに投げかけたところ、Aは「そのことで、自分にできることが見つからなかったから、自分でできることを考えて給食がいいと思った。」と答えた。さらに「でも、給食で考えてみても、やっぱり難しい。特に、事実と立場について、どう考えたらいいのかわからない。」と言った。そこで、読み手が納得できる根拠としての事実と意見についてより深く考えられるように、Aがプリントに書いた具体的な内容についての支援を行った(資料6)。

資料6 抽出児Aへの声かけによる支援

授 このプリント を読んだ人は、あなたの意見に納得して実行してくれるかな。  
A どうだろう。どうすればいいんですか。  
授 アドバイスを2つするね。事実については二酸化炭素が大気汚染につながるといことが分かりづらいから、(中略)。立場については、好き嫌いの多いあなたが、給食を残さないというのは、大変かもしれないから、よく考えて、本当に頑張れることを書くといいと思うよ。  
A 給食を残さないのは、やっぱり無理かも。あっ、そうだ。給食センターの人に頼んで作る量を減らしてもらえばいいんだ。  
授 栄養士さんは、みんなの成長に必要な量を考えて作ってくれているんだよ。  
A やっぱ、食べるしかないか。

Aは、発想や認識をもつ学習活動で、意見と事実を区別できなかった。しかし、Aはこれまでの学習を通して、意見と事実を区別できるようになり、以前よりも深められた自分の考えをこのプリントに書くことができ、「どうやって作文を書いたらいいのかわかった。」と話した(資料7)。

資料7 抽出児Aの学習プリント

この学習プリントには、意見と事実の区別が図解されています。意見は「給食を残さないのは、やっぱり無理かも。あっ、そうだ。給食センターの人に頼んで作る量を減らしてもらえばいいんだ。」とあり、これは「意見」欄に記されています。一方、「事実」欄には「栄養士さんは、みんなの成長に必要な量を考えて作ってくれているんだよ。」と記されています。また、「立場」欄には「今までは給食をほとんど残していたが、これからはちゃんと給食を残さずに食べていきたい。」と記されています。図解には「意見は伝える相手」と「意見を伝える相手」の区別も示されています。

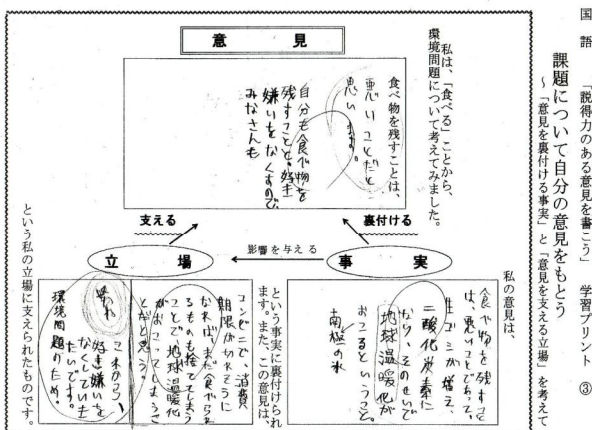
抽出児Bは、プリントの余白に「フロン」と書いた。フロン回収機製作会社社長のビデオに興味をもったようなので、「社長さんのことに興味をもったの?」と話かけた。Bがうなずいたので、さらに「『もったいない』を自分の意見に生かそうとしているのかな。」と問いかけると、Bは「けど、難しくって。弱った。」とつぶやいて、余白のメモを消した。そこで「あきらめないで挑戦してみようか。」と励まし、以下のような声かけによる支援を行った(資料8)。

資料8 抽出児Bへの声かけによる支援

B	今まで考えてきたことと、フロン回収機をうまくまとめられないからやめる。
授	「もったいない。」という考え方を深めると、今までの学習をまとめられると思うよ。
B	難しくよく分からないな。「食べることにするかな。事実、何を書けばいいんだ？
授	(食べ残しについて、ゴミの焼却 二酸化炭素発生 温暖化 南極の氷の溶解などの事実を説明)
B	それ、本当ですか？
授	うん。そういう事実を知って、君が何をできるか考えると、君の立場が決まるかな。
B	立場って、「行動」？ 大変かもしれない。

Bは、本時のプリントではなく、プリントを読み返しなが、そこに自分の考えを書き、「作文で何を書いたらいいのかが分かったような気がした。」と話した(資料9)。

資料9 Bが「発想や認識」を考える学習活動に続いて取り組んだ、学習プリント



他の生徒の学習では、話し合い活動によって、互いの考えを深め合う様子が見られた。

意見として「食べ残しを考え直そう」という内容を書いた者は34名中の30名で、それ以外は、フロン回収機の話を参考にして「もったいない」という言葉から電気や石油、紙などの無駄遣いを見直す意見を書いた。事実については、[二酸化炭素の大量発生 温暖化]と[二酸化炭素+フロンガス オゾン層破壊]のどちらか一方か、または、両方を書いた者が多かった。立場では、食べ残さない努力や食べ残した物の処理の工夫を組み合わせで書いたものが多かった。意見を伝えたい相手では自校の生徒を書いた者が多く、それ以外では地域の人々を書いた者も数名いた。全員が相

手意識をもって、2種類の根拠を拠りどころとした自分の意見をもてたと考える。

生徒の感想では「学習を振り返って考えを深められたのがよかった。」「意見に説得力をもたせるには、根拠が大切だということが分かった。」「といったものが多かった。

以上のことから、これまでの学習を振り返るための学習資料で自分の考えを振り返り、自分の意見と他者の意見の根拠を比較して考えを深めるための学習プリントに取り組んで自分で考えたり話し合ったりしたことは、読み手が納得できる根拠を明確にして、説得力のある意見をもつ上で有効であったと考える。

研究のまとめと今後の課題

「書くこと」について「どうやって考えたらいいのかわからない」「書くことがない」という悩みをもつ生徒の実態に対して、他者の意見の根拠である「意見を裏付ける事実」と「意見を支える立場」について考える学習活動を行ったことにより、生徒はものの見方や考え方を広げたり深めたりすることができた。

事後の学習活動で生徒が互いの文章を読み合う学習活動を行ったところ、「事実や立場がしっかり書いてあるので説得力のある意見文になったと思う。」といった感想が多く聞かれた。自分の意見の根拠と他者の意見の根拠を比較して考えることにより、事実と意見という2種類の根拠を拠りどころとして、読み手が納得できる意見を全員がもてたと考える。

自分の意見の根拠としての事実を考えるための十分な知識をもっていなかった生徒が多く、個別支援に時間がかかった。今後は、より短時間で効率的に学習できる工夫が必要である。また、事実と事実との関係をどう捉えるか悩んだ生徒が少なからずいたため、事実同士の因果関係を考えたり、対照的な事実を比較検討したりできるように、学習方法を見直す必要がある。

主な参考文献

- ・中村 敦雄 著 『コミュニケーション意識を育てる 発信する国語教室』 明治図書(1998)
- ・内田 伸子 著 『子どもの文章』 東京大学出版会(1990)
- 別添 資料編 指導案、学習プリント、その他 (担当指導主事 村田 伸宏)